

# 農薬検出、半年続く

## 宮古島水道水 許容以下でも「対策を」

【宮古島】宮古島地下水研究会(共同代表・前



里和洋、新城竜一、友利直樹)は1月30日、同会の調査で市内2カ所の水道水から半年間、継続して農薬が検出されたと発表した。検出値は国の定める摂取許容量を下回るが、同会は「健康影響が出てからでは遅い。予防原則の考えで対策が必要だ」と訴えた。

昨年6〜11月にかけて市下里と市城辺の2カ所

宮古島市内の水道水から検出した農薬類について説明する宮古島地下水研究会の友利直樹共同代表は1月30日、宮古島市平良

の水道水調査で毎月検出された。害虫防除剤として使用されるネオニコチノイド系農薬クロチアジソンとジノテフランを検出した。同会は「化学農薬による地下水複合汚染が始まっている」としている。1カ所中、クロチアジソンは最高で48ナガ(平均約28・3ナガ)を検出し、ジノテフランは最高27ナガ(平均約22・6ナガ)だった。国の安全基準(その他の農薬類暫定目標値)の約0・0045%〜約0・02%だった。

同会は2種類の農薬に

ついて「EU圏は使用禁止になっており、安全基準値も1リットル中100ナガ以下だ」と指摘した。EU基準に照らすと基準上限の3分の1〜2分の1に当たる。

宮古島市も昨年8月に市内4カ所の水源などを調査し、同種の農薬などを検出した。市は「水道管理の目標値、水質汚濁に関わる基準を大きく下回っており安心して利用できる」としている。

同会は国による農薬の安全基準の決定根拠について「67年前に設定されたもので科学的根拠が不十分」と指摘し「子どもや妊婦、胎児にも等しく適用していいものか。うのみにして微量だから安全と断言してはいけない」と強調した。

(佐野真慈)